

関西国際空港のあゆみ

〈構 想〉

- 昭和37年
 - ・国連ワイズマン「関西に第2国際空港必要」勧告。
 - ・近畿圏開発整備協議会「関西に第2国際空港必要」提唱。
- 昭和38年
 - ・近畿圏整備本部の検討課題「大阪国際空港拡張整備と第2国際空港建設」閣議了承。
- 昭和39年
 - ・ジェット機就航、大阪国際空港騒音対策協議会設立。
 - ・（東京オリンピック開催、海外渡航自由化。）
- 昭和40年
 - ・騒音協「代替空港として新空港の実現」運動方針。
 - ・運輸省「関西に第2国際空港の必要性」言及。
 - ・神戸商工会議所「淡路島新空港」構想発表。
- 昭和41年
 - ・兵庫県、神戸市「淡路島新空港」建設構想発表。
- 昭和42年
 - ・近畿ブロック議長会「淡路島新空港」建設促進申合せ。
- 昭和43年
 - ・近畿ブロック知事会「淡路島新空港」実現促進決議。
 - ・大阪府・兵庫県両知事、大阪・神戸両市長、関西経済界「淡路島に関西国際空港」の誘致確認。
 - ・京阪神三商工会議所会頭会議でも実現促進決議。
 - ・（成田で反対派警官隊と衝突）

〈調 査 計 画〉

- 昭和43年4月
 - ・運輸省「関西国際空港」基本調査開始。
- 昭和44年9月
 - ・淡路島北淡町議会反対決議。
- 12月
 - ・「大阪空港騒音訴訟」提訴。
- 昭和45年2月
 - ・大阪空港拡張工事完成B滑走路供用開始。
- 2月
 - ・大阪商工会議所、泉南沖案賛成。
- (3月
 - ・万博開幕、B747就航。)
- 3月
 - ・和歌山市議会反対決議。
- 5月
 - ・泉南市議会反対決議、泉州各市町に広がる。
- 9月
 - ・運輸省「関西空港計画室」
 - ・「計画委員会」設置
- 10月
 - ・大阪府議会も反対決議。
 - ・関西財界の「関西国際空港推進協議会」発足。
- 11月
 - ・芦屋市ら阪神間各市議会も反対決議。
- 昭和46年4月
 - ・大阪府知事選で革新知事誕生。
- 7月
 - ・神戸市が神戸ポートアイランド沖試案を発表。
- 9月
 - ・運輸省、8候補地の調査結果概要を公表。
 - ・運輸省が公団への出資協力要請。
 - ・大阪府、兵庫県、大阪市、神戸市のトップ会議で「公害のない新空港建設」合意。
- 10月
 - ・航空審議会に「関西新空港の規模・位置」について諮問。
- 11月
 - ・大阪湾で実機飛行テスト。
- 昭和47年1月
 - ・47年度予算での公団設立見送り。

- 3月 第2次空整5ヶ年計画「関空の建設を進める」閣議決定。
・神戸市議会で反対決議。
- 5月 ・大阪空港周辺の11市協、関西新空港建設促進を決議。
- 6月 ・阪南5商工会議所「泉州沖試案」発表。
- 7月 ・運輸省、第三港湾建設局に関西空港調査室設置。
- 8月 ・航空審議会、聴問会で地元意見聴取。
- 昭和48年1月 ・48年度予算での公団設立再度見送り。
- 3月 ・宮崎神戸市長が建設反対表明。
・黒田大阪府知事、「現段階では建設反対」と表明。
- 7月 ・運輸省、「大阪空港廃止も含めて検討」解答。
- (10月 ・第1次オイルショックが発生。航空需要見直し。)
- 12月 ・環境庁「航空機騒音の環境基準」告示。
- 昭和49年3月 ・兵庫県議会「促進請願」を採択。
- 6月 ・大阪府議会「泉州沖反対」を再決議。
- 8月 ・航空審議会「泉州沖が最適地」と答申。(第1次答申)
- 10月 ・大阪科学技術センターに産・官・学の「関西新国際空港調査研究部会」設置。
- 昭和50年7月 ・木村運輸大臣が関係府県知事を歴訪、調査協力要請。
- 9月 運輸省が地元説明会を開催。
- 昭和51年5月 ・運輸省、現地に海気象観測施設設置申し入れ。
- 6月 ・関西国際空港の6大企業グループ結成。(53年8月)
- 12月 ・環境影響調査機関として「(財)関西空港調査会」発足。
- 昭和52年2月 ・運輸省、調査全体計画を公表。
- 10月 ・運輸省、現地に海上観測塔完成。
- 昭和53年1月 ・運輸省、海気象観測開始。
・国土庁ら関係省庁により周辺地域調査開始。
(5月 ・成田空港開港。)
7月 ・運輸省、海底地質調査(ボーリング)調査開始。
(11月 ・第2次オイルショック。)
- 11月 ・福永運輸相、航空審に再度諮問。
・運輸省「56年度着工、60年代前半開港」を表明。
- 昭和54年3月 ・関西財界の「関西新国際空港建設促進協議会」発足。
- 4月 ・大阪府岸知事誕生。
- 5月 ・実機飛行調査実施。
- 6月 ・建設工法として「浮休工法」が浮上。
- 9月 ・泉南市議会、反対決議撤回を決議。
- 12月 ・航空審関西国際空港部会に「建設工法小委員会」を設置。
- 昭和55年3月 ・大阪府議会「反対」を軌道修正。
- 6月 ・衆参両院同時選挙で自民党圧勝、地元大臣就任。
- 7月 ・航空審関西国際空港部会「埋立法」とする中間報告。
- 8月 ・塩川運輸相「57年度着工」表明、渡辺蔵相「計画見直し」強調。
・自民党「関西空港建設促進議員連盟」設置。
- 9月 航空審「関西国際空港設置の計画

- について」答申。(第2次答申)
- ・大阪科学技術センター「国際空港シンポジウム」開催。
- 11月・運輸省、建設計画案公表。
- ・石井私案(神戸沖)発表。
- 12月・56年度政府予算案に土質調査費を計上。
- 昭和56年2月・大阪空港公害訴訟最高裁判決。
- 3月・泉州市町で反対決議撤回相次ぐ。
- 4月・塩川運輸相が関係府県を歴訪、計画案の地元協議協力要請。
- 5月・運輸省、「関西国際空港の計画案」「関西国際空港の環境影響評価案」及び「関西国際空港立地に伴う地域整備の考え方(いわゆる「三点セット」)を関係府県に提示。
- ・関係府県主催による地元説明会を開催。
- 6月・大阪府「地域整備構想案」発表。
- 第2次臨調、「関空は慎重な調査検討を行う」報告。
- 12月・第4次空整計画閣議決定。「早期に結論を得た上、推進を図る」
- 昭和57年3月・大阪府、大阪市、の各議会が要望決議を採択。
- 4月・大阪府公聴会を開催。
- ・「促進協」東京事務所開設。
 - ・事業主体「奥田試案」公表。
- 7月・大阪府が「三点セット」に対して運輸省へ回答。
- ・和歌山県議会が要望決議を採択。
 - ・「促進協」全国組織化。
- 8月・和歌山市議会が促進請願を採択。
- ・和歌山県が「三点セット」に対して運輸省へ回答。
- 9月・運輸省に建設促進会議を設置。
- 12月・関西国際空港促進全国大会開催。
- 運輸大臣、神戸沖案について兵庫県知事と会談。
 - 58年度予算案に、着工準備調査費を計上。
- 昭和58年1月・自民党、「関西国際空港建設特別委員会」を設置。
- 4月・運輸省、貝塚市に現地事務所を開設。
- 5月・関西国際空港関係閣僚会議(第1回)開催。
- 8月・59年度予算に関西国際空港の事業主体として公団の設立を要求。
- 12月・運輸省、泉州沖で地盤改良実験調査開始。
- 昭和59年1月・59年度予算に関西国際空港の事業主体たる関西国際空港株式会社の設立を認め、政府出資金として34億円を計上。
- 2月・兵庫県が「三点セット」に対し、一期計画の具体化に同意する旨回答。
- 関係閣僚会議、1期計画了承、運輸省は3府県に空港計画案提示。
- 3月・大阪空港公害訴訟和解成立。
- ・関西国際空港株式会社法案閣議決定、国会提出。
- 4月・大阪府庁、大阪科学技術センターに過激派放火。
- 6月・関西国際空港株式会社・同法施行令・同法施行則・公布施行。
- 8月・関西国際空港株式会社定款、運輸大臣認可。

〈建設〉

- 昭和59年10月・関西国際空港会社発足。「61年3月着工、67年度末開港」目途。事業費約1兆円。
- 11月・「関西国際空港計画」を決定、511ha 3500m1本。
・「関西国際空港推進会議」発足。
- 12月・60年度政府予算案に着工のための工事費計上。
- 昭和60年7月・漁業補償交渉開始。
- 12月・関係閣僚会議で「関西国際空港関連施設整備大綱」決定。
- 昭和61年2月・米大使、空港会社に工事参入要請。
- 4月・空港会社と大阪府漁連、漁業補償契約調印(250億円)。
- 6月・空港会社、環境影響評価書を大阪府に提出。
・空港会社と兵庫県漁連、漁業補償契約調印(323億円)。
- 7月・空港会社・公有水面埋立免許を大阪府知事に出願・飛行場設置許可を運輸大臣に申請。
- 8月・空港会社と和歌山県漁連、漁業補償契約調印(39億円)。
・11市協「現空港撤去」の方針撤回。
- 9月・運輸省地元で公聴会開催。
- 10月・空港会社、米大統領貿易使節団に対しセミナー開催。
- 11月・第5次空整5ヶ年計画閣議決定。
- 12月・空港会社、韓国企業に対しセミナー開催。
・運輸大臣が空港会社に対し、関西国際空港の設置を許可。
- 昭和62年1月・大阪府知事が関西国際空港の埋立を免許。
- ・関西国際空港(空港島)着工。
- 3月・大阪府、「りんくうタウン」着工。
- 5月・空港会社、ECに対するセミナー開催。
- 6月・空港連絡橋着工。
- 7月・地盤改良船、過激派爆破。
- 10月・「おおぞら」過激派爆破。
- 11月・外国企業参入問題、日米協議で合意。
- 12月・運輸大臣、空港連絡鉄道事業について免許。
・63年度政府予算に初めて全体構想調査費計上。
- 昭和63年3月・空港会社、旅客ターミナルビル基本構想決定。
- 8月・阪南土取場、過激派爆破。
- 9月・11市協、現空港ジェット増便受入。
- 12月・空港島護岸概成。
・空港会社、旅客ターミナルビル国際設計競技でレンゾ・ピアノ氏。
- (1989年)
- 平成元年5月・加太・阪南から埋立用土砂搬出開始、埋立本格化。
- 6月・「全体構想早期実現期成会」発足。
- (1990年)
- 平成2年4月・空港島地盤沈下予測値修正、埋立土量追加。
- 8月・航空審、第6次空整5ヶ年計画中間報告。
- 10月・空港連絡道路着工。
- 12月・現空港存続決定。
- 12月・りんくうタウン商業業務ゾーン被分譲者決定。
・開港時期、平成6年夏頃に延期発表。

- ・1期事業費、1兆4300億円に決定。
- (1991年)
- 平成3年3月
 - ・管制塔着工。
 - ・空港連絡橋概成。
- 5月
 - ・旅客ターミナルビル着工。
- 6月
 - ・空港会社社長に服部経治氏就任。
 - ・「全体構想推進懇談会」発足。
- 9月
 - ・運輸省、「開港推進連絡会議」設置。
- 11月
 - ・第6次空整5ヶ年計画に全体構想の調査推進盛り込み。
- 12月
 - ・旅客ターミナルビルウイング延長復活。
 - ・空港島埋立完了。
 - ・平成4年度予算で全体構想調査費、音波土質探検費を含め3億5千万円で決着。

- (1992年)
- 平成4年4月
 - ・「全体構想推進懇談会」大阪府知事に答申。
- 5月
 - ・11市協、現空港ジェット増便受入調印。
 - ・運輸省、関空への乗入について希望国と協議開始。
- 7月
 - ・関西国際空港給油(株)設立。
- 8月
 - ・空港会社、音波土質探査開始。
 - ・平成5年度政府予算の概算要求で、ボーリング調査ら全体構想調査費9億6,800万円要求。
 - ・関西空港関連施設整備事業費3兆4,300億円に見直し。
- 9月～11月
 - ・りんくうゲートタワービル着工。
 - ・飛行ルート1部陸上への変更問題化。地元の9市4町議会ら反対意見書採択。

- 11月
 - ・管制塔・庁舎完成。
- 12月
 - ・全体構想推進期成会東京アピール開催。
 - ・旅客ターミナルビルテナント応募8.2倍。
 - ・大阪湾ベイエリア法案成立。
 - ・りんくうタウン商業地域北地区開発先行へ計画見直し。
 - ・平成5年度政府予算案で全体構想調査費5億円で決着。

- (1993年)
- 平成5年1月
 - ・運輸省、飛行ルート海上限定に決定。
 - ・全体構想ら意見交換のため大阪府知事ら「4首脳懇談会」発足。
 - ・日航、関西空港格納庫らの建設凍結。
- 2月
 - ・空港会社、全体構想調査費約80億円、期間3年必要と表明。
 - ・空港会社、経済界、自治体が国内ポートセールス開始。
 - ・関西経済連合会名誉会長 日向方斎氏逝去。
- 3月
 - ・大阪府中川知事、協議組織を新設し、事業主体、地元負担ら再検討表明。
- 4月
 - ・政府、総合経済対策として関空の立体駐車場先送り分復活。
 - ・大阪府、企画調整部に空港対策室新設。
 - ・自治体・経済団体による「関西国際空港全体構想推進協議会」発足。
 - ・関西空港調査会、国際空港シンポジウム開催。
- 5月
 - ・複合管理棟の中央棟起工。

- ・旅客ターミナルビルおよび空港駅・立体駐車場上棟式挙行。
- ・空港会社、音波探査結果発表。
- ・成田空港、B・C滑走路計画白紙に。
- 6月 ・林蔵相、全体構想慎重姿勢表明。
- ・地元四者首脳懇、全体構想調査費地元負担前向きに進め合意。
- 7月 ・衆議院選挙で自社による「55年体制」崩壊。
- ・関西国際空港施設エンジニア(株)設立。
- 8月 ・細川内閣発足。
- ・運輸省・空港会社「来年9月開港」と発表。
- ・平成6年度政府予算でボーリング土質調査を含め全体構想調査費10億500万円概算要求。
- ・空港連絡橋仮使用開始。
- ・運輸省・VOR/DME飛行検査開始。
- ・全体構想推進協議会、ボーリング調査費地元負担の方針決定。
- ・神戸空港、新規事業に格上げ。関西空港の飛行経路変更案まとめ。
- 9月 ・伊藤運輸相、ヘリコプターで関西空港滑走路初着陸視察。
- ・阪和自動車道全線開通。
- ・淡路島、関西空港の飛行ルート変更問題に反対撤回要求。
- 10月 ・関西空港会社、IATAに国際線と国内線の二重価格制の着陸料など空港使用料提示、料金交渉に入ったが物別れ。
- ・大阪府、りんくうタウン商業業務ゾーン南地区の暫定利用案発表。
- ・運輸省、伊丹空港と関西空港との機能分担について発表。
- 11月 ・関西空港の国際表示(略称)、「KIX」に決定。
- ・平成5年度第2次補正予算案に複合管理棟北棟の整備(142億円)計上。
- ・IATAダイヤ調整会議で関西空港への乗り入れ26ヶ国34社から週約500便希望。
- ・藤井蔵相、全体構想に慎重姿勢表明。
- ・運輸省、11市協に対し伊丹空港と関西空港機能の分担案を正式に提示。
- 12月 ・空港連絡道で大阪府が初の代執行。
- ・全体構想早期実現期成会「東京アピール'93」開催。
- ・全体構想ボーリング調査費負担割合、府市と財界大筋合意。
- ・滑走路灯火試験開始。
- ・関西空港の代替4空港(那覇・伊丹・羽田・成田)決定。
- (1994年)
- 平成6年1月 ・運輸省大阪航空局の関西空港事務所発足。
- ・運輸省、飛行検査開始。
- 2月 ・6年度政府予算案に全体構想ボーリング調査費、地元負担で組入れ。
- ・りんくうタウン商業業務ゾーン、5年間の暫定利用発表。
- 3月 ・空港連絡橋完成。
- ・空港連絡鉄道駅完成。
- ・飛行管制開始、国内3社初着陸。
- ・JR空港特急「はるか」南海空港持

- 急「ラピート」初テスト乗入れ。
- 4月
- ・泉南市議会、全体構想反対決議。
 - ・関空総合通信システム営業開始。
 - ・阪神高速湾岸線と関空自動車道開通。
 - ・全日空格納庫着工。
 - ・アジア太平洋トレードセンター(ATC)オープン。
- 5月
- ・羽田内閣発足。
 - ・運輸省、関空と大阪空港の国内線路線配分発表。
 - ・運輸省、関空の供用開始(9月4日)告示・航空情報発行。
- 6月
- ・関空キャラクターマークを発表。
 - ・大阪府議会、全体構想推進決議。
 - ・泉南市議会、全体構想反対決議を撤回。
 - ・旅客ターミナルビル完成。
 - ・全体構想検討委、推進協に中間報告。
 - ・関空本社、空港内に移転。
 - ・JR西日本、南海空港線営業運転開始。
 - ・航空燃料給油施設完成、試運転開始。
- 7月
- ・村山内閣発足。
 - ・増資計画を発表、資本金を4,336億5,000万とする。
 - ・運輸省関西空港事務所、気象庁関西航空地方気象台が完成。
 - ・広域レーダー管制システムを運用開始。
- 8月
- ・国際線着陸料IATAと合意。
 - ・航空保安無線施設の運用開始。
 - ・平成7年度政府予算概算、総額242億円。
- 皇太子殿下、同妃殿下をお迎えして、開港記念式典開かれる。
- ・空港施設利用料、在日航空会社代表者協議会と合意。
- ・全体構想推進協議会、総会を開く。
- ・りんくうタウンに府立泉州救命救急センターが完成。
- 〈供 用〉
- 平成6年9月
- ・関西国際空港開港
 - ・開港記念でコンコルド飛来。
 - ・関西空港地方合同庁舎完成。
 - ・関空会社、総理大臣顕彰。
 - ・りんくうパパラがオープン。
 - ・大阪府、関空需要予測検討調査結果を発表。
 - ・成田空港C滑走路を断念。
 - ・関空国際旅客・貨物、伊丹時代より40%増加。
 - ・有料展望台見学者、1日当たり1万人
 - ・台風26号、近畿縦断。
- 10月
- ・天皇皇后両陛下が政府専用機で関空から欧州訪問に出発。
 - ・関空国際線、冬ダイヤで週388便(26ヶ国)になる。
- 11月
- ・PTBの鋼構造が英国鋼構造デザイン賞を受賞。
 - ・世界観光大臣会議が大阪で開催。
 - ・「全体構想早期実現期成会」東京アピール'94開催。亀井運輸相、地元の熱意要望。
- 12月
- ・関空国際線、1日当たり50便突破。
 - ・国際線出発客100万人突破。
 - ・関空会社初年度見通し、償却前損益80億円。

- ・関空会社服部社長、全体構想への財界資金負担要望。

(1995年)

- 平成7年1月
- ・関空見学展示ホール入場者100万人突破。
 - ・阪神淡路大震災。関空救援らに活躍。
- 2月
- ・伊丹空港門限10時まで暫定延長。
 - ・りんくうタウン事業見直し収支計画発表。
- 3月
- ・関空国際線夏ダイヤ発表、27ヶ国、35社、423便／週。
 - ・航空審議会、7次空整審議開始。
 - ・りんくう国際物流センター着工。
- 4月
- ・関空全日空格納庫完成。
 - ・大阪ワールドトレードセンタービル開業。
 - ・横山ノック大阪府知事誕生。
 - ・全体構想推進協検討委最終報告。
- 5月
- ・関空94年度土木学会技術賞、95年日本建築学会賞受賞。
 - ・エアロプラザ汚職事件発覚。
 - ・全体構想95年度ボーリング調査開始、94年度調査結果発表。
 - ・全体構想推進協地元案まとめる。
- 6月
- ・横山大阪府知事、航空審で全体構想に上下主体分離案の方式採用表明。
 - ・エアロプラザオープン。
 - ・関空95年3月期決算発表、経常赤字171億円。
 - ・航空保安施設国へ売却し、関空国際線着陸料トン当たり100円引下げ。
- 7月
- ・運輸・自治省 全体構想造成の第三セクター提案。
- 8月
- ・航空審「七次空整」中間とりまとめで、関空2期最優先課題。
 - ・りんくうゲートタワービル上棟式挙行。
 - ・関空の1日の出入国者最多(36,000人)を記録。
- 9月
- ・関空開港1周年を迎える。
 - ・フェデックス早朝の貨物定期便を就航。
 - ・「空港内巡回見学バス」営業開始。
 - ・全体構想400m級ボーリング調査完了。
 - ・近畿運輸局、アクセス利用状況(1年)発表 鉄道約80%占める。
 - ・アジア太平洋空港会議(APAC)国際空港シンポジウム開催。
- 10月
- ・関空国際線冬ダイヤ発表、28ヶ国、39社、470便／週。
 - ・ホテル関西空港グランドオープン。
 - ・関西飛翔会平成7年度総会開く。
 - ・関空 PTB で レンゾ・ピアノ氏「世界文化賞」受賞。
- 11月
- ・阪南スカイタウン1期分譲開始。
 - ・アジア太平洋経済協力会議(APAC)開催。
 - ・関空全体構想期成会、国に全体構想早期実現を要望。
 - ・西口勇氏和歌山県知事に就任。
- 12月
- ・運輸・大蔵両大臣折衝で、関空2期事業着工を認める。
 - ・関空2期実施設計調査費計上。

(1996年)

- 平成8年1月
- ・関空1日の出入国最多(37,000人)を記録。
 - ・橋本連立内閣が発足。
- 2月
- ・2007年までに累積赤字一掃し配当が可能と服部社長表明。
 - ・関空2期用地造成費用、地元自治体の負担割合決まる。
- 3月
- ・関西空港連絡橋、風規制を緩和。
 - ・関空横風のため、2便が大阪空港に着陸地を変更。
 - ・関空国際線夏ダイヤ発表、33カ国、72都市と結び、週524便。
 - ・大阪シティアターミナル(OCAT)オープン。
- 4月
- ・関空、新見学展望ホールオープン。
 - ・全体構想地区のボーリング調査結果発表。
 - ・関西国際空港会社法改正案が可決成立。
- 5月
- ・関空96年3月期決算発表、経常赤字358億円。
 - ・関空平成8年度事業計画(1期施設拡張・2期実調)認可。
 - ・関西空港特急の騒音・振動実態調査実施。
 - ・和泉コスモポリス造成起工。
- 6月
- ・関西国際空港用地造成会社発足。
 - ・関空会社会長に新宮康男氏(住友金属会長)、社長に御巫清泰氏(元運輸省港湾局長)就任。
- 7月
- ・運輸省岩村飛行場部長、3府県に対し関空飛行ルート改善の必要性説明。
- 8月
- ・運輸省「関空における飛行経路問

題検討会」設置発足。

- ・用地造成会社、2期埋立用土砂を3府県に対し各々8,000万-8,500万 m^3 程度調達意向申入れ。
 - ・関空8月の出入国者数100万人突破
- 9月
- ・関空開港2周年。開港2年目の年間旅客取扱数1,822万人、貨物取扱量50万6千t。35カ国74都市に直結と発表。
 - ・空港連絡橋、防風棚設置工事開始。
 - ・運輸省「大阪空港地域活性化調査委員会」設置。
 - ・りんくうゲートタワービル完工。
- 10月
- ・りんくうタウンまちびらき。
 - ・関空国際線冬ダイヤ就航状況564便/週と発表。
 - ・関西飛翔会、全日空ゲートタワーホテルで総会開催。
 - ・衆議院選挙、自民党239議席確保復調、但し大阪小選挙区では19議席中3議席と大敗。
- 11月
- ・第2次橋本内閣発足。
 - ・関空96年9月中間決算を発表、償却前黒字2億円。
 - ・関西国際空港民間出資促進委員会発足。
 - ・地元3府県、飛行ルート問題について運輸省に質問状提出。
 - ・神戸空港、飛行場設置許可申請を提出。
- 12月
- ・第7次空港整備5ヵ年計画が閣議決定。
 - ・関空国際出発旅客1,000万人突破。
 - ・飛行ルート問題について運輸省が地元へ回答。

- ・大阪湾臨海地域整備計画関係7大臣が承認。
- ・9年度政府予算で関空建設費200億5,000万円計上。

(1997年)

- 平成9年1月
- ・関空、旅行業界誌の人気投票で世界のベストエアポート部門5位に選ばれる。
 - ・大阪府が「関西国際空港の飛行経路等に係る専門家会議」を設置、第1回会議開催。
- 2月
- ・空港連絡橋の防風柵が完成。
 - ・運輸省、神戸空港の設置許可。
- 4月
- ・関空夏期運航スケジュール発表、週635便、74都市と結ぶ。
 - ・関空に南アフリカ航空が就航、同国初の日本路線。
 - ・モノレール、大阪空港一柴原間開通。
- 5月
- ・タイ国際航空、深夜早朝便を就航。
 - ・関空97年3月期決算を発表、経常赤字300億円。
 - ・りんくうタウンに日本語研修施設「関西国際センター」オープン。
 - ・りんくうタウンに「大阪府パスポートセンター」オープン。
 - ・「関西国際空港の飛行経路等に係る専門家会議」中間とりまとめを発表。
 - ・和歌山「関西国際空港2期事業埋立用土砂供給連絡協議会」発足。
- 6月
- ・運輸省、地元3府県に陸上ルート案を提示。
 - ・大阪府土地開発公社「岬町多奈川地区土砂採取事業施工計画提案協

議」を実施。

- 7月
- ・ニューギニア航空が関西空港～ポートモレスビー（パプアニューギニア）線開設。関空乗り入れは35ヶ国、関空単独路線は13となる。
 - ・運輸省、貝塚市町会連絡会ら地元に対し、関空の陸上飛行ルート説明会を開催。
- 8月
- ・2008年夏季オリンピックの国内開催候補都市に大阪市が決定。
 - ・運輸省関空会社、98年度予算概算要求で2期着工のための埋立など本工事を盛り込み。
- 9月
- ・関空開港3年目。旅客数は国際線1,135万人、国内線831万人の計1,966万人。国際線旅客は1年目に比べ43%増。貨物は国際線57万トン、国内線は8万6,000トンで国際貨物は1年目の63%増。
 - ・関空連絡橋の利用車両、開港以来1,000万台を突破。
 - ・関西飛翔会、ホテル日航大阪で平成9年度総会を開催。
- 10月
- ・ニュージーランド航空、関西空港発フィジー経由オークランド線を就航。
 - ・りんくうタウンに、りんくう総合医療センターオープン。
- 11月
- ・大阪府飛行ルート専門委員会、大阪府に実機飛行実施受入を中間報告。
 - ・自民党、関空2期促進議員連盟発足。
 - ・関西財界、2期民間出資枠決定。
 - ・関空97年9月中間決算を発表、償

却前黒字57億円。

- ・大阪国際空港地域活性化調査委員会、調査報告書をまとめる。

- 12月
- ・地球温暖化国際会議、京都で開催。温暖化ガス削減目標決定。
 - ・運輸省、地元3府県に「年明け実機飛行調査」計画提示。
 - ・関空2期「経済効果11兆3千億円、雇用のべ78万人」と関経連発表。
 - ・関空会社2期事業に一般競争入札導入を発表。
 - ・神戸空港着工は99年度に延びると神戸市長表明。
 - ・りんくうタウンに台湾企業進出、大阪府覚書締結。
 - ・関空2期、現地着工準備事業費917億円認められる。

(1998年)

- 平成10年1月
- ・日米航空協定、46年ぶり平等化基本合意し日米路線増便。
 - ・11市協、大阪空港騒音対策区域縮小案受入れ、ジェット機増便。
- 2月
- ・関空陸上飛行ルート実機調査(第1回)実施、騒音は予測値内。
- 3月
- ・関空国際線夏期スケジュール発表、ピーク時1日94便に達す。
 - ・大阪府、関空実機調査結果を踏まえ環境面での特別配慮(6項目)を運輸省に要請。
 - ・大阪府議会、「関空2期事業推進等に関する意見書」採択。
- 4月
- ・明石海峡大橋開通。
 - ・台湾長栄航空、エアーニッポンと共同運航で関空-台湾線開設。
 - ・関空会社、2期事業の環境影響評

価準備書を大阪府及び和歌山県知事に提出。

- ・関空陸上飛行ルート実機調査(第2回)実施、騒音は予測値内。
 - ・日航、関空-天津線開設。
 - ・運輸省、当面貝塚上空への離陸経路は国内線に限るなど関空陸上ルート騒音緩和策回答。
 - ・泉佐野コスモポリス処理民事調停で修正案合意。
 - ・関経連新宮会長、関空2期事業民間出資目途つくと表明。
- 5月
- ・関空飛行経路専門家会議、陸上ルート容認の最終報告を大阪府へ提出。
 - ・大阪府、和歌山市、大阪市関空陸上ルート受け入れ表明。
 - ・PTB北側駐機場で固定スポット4基増設完了。
 - ・関空98年3月期決算発表、経常赤字242億円。
 - ・関空2期事業の環境影響評価準備書の地元説明会開催。
 - ・98年度政府補正予算案に関空2期着工準備費77億円追加計上、総額994億円となる。
 - ・中国北方航空、関空-瀋陽線開設。
- 6月
- ・兵庫県と堺市・和泉市が関空陸上ルート受け入れ表明。
 - ・クアラルンプール新国際空港開港。
- 7月
- ・岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町が陸上ルート導入容認を表明。
 - ・運輸省が関西空港の陸上ルート導入に伴う環境対策を大阪府に提示。

- ・大阪府関空会社の環境影響評価準備書について公聴会を泉佐野市で開催。
 - ・大阪府知事が運輸省大阪航空局長に陸上ルート導入を認める回答書を手交。
 - ・新香港国際空港開港。
- 8月
- ・関空会社・用地造成会社が大阪府漁連に2期漁業補償金160億円提示。
 - ・大阪府漁連が漁業補償金278億円を要求。
- 9月
- ・台風22号近畿を直撃。関空は開港以来初めて管制塔を閉鎖し、滑走路も閉鎖。
 - ・関空会社、運輸省、大阪府、大阪市、泉州9市町で構成する「関西国際空港の飛行経路問題に係る協議会」が初会合。
 - ・関空会社は国際線着陸料、停留料について、IATAと現行料金継続で合意。
- 10月
- ・関西飛行会はホテル日航大阪で平成10年度総会を開催。
 - ・大阪府知事が2期事業に伴う環境影響評価について、事業の着工を認める意見書をまとめ、事業者に提示。
 - ・関空会社と用地造成会社が2期事業の環境影響評価書を大阪府に提出。
 - ・関空用地造成会社が2期空港島護岸築造工事の仕様説明会開催。
 - ・ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが起工。
- 11月
- ・大阪府漁連との漁業補償交渉が決着。補償額200億円、振興基金への増資30億円。
 - ・関空からの国際線出発客が2,000万人に達す。
 - ・関空会社が陸上ルートに伴う環境監視体制の強化策発表。
 - ・神戸市議会は神戸空港建設の是非を問う住民投票条例案を否決。
 - ・政府は景気対策臨時緊急特別枠に関空2期護岸埋立事業費として437億円を盛り込んだ(要求は743億円)。補正後の今年度事業費は1,431億円となった。
- 12月
- ・12月3日より陸上ルート運用開始。
 - ・関空会社が大阪府・兵庫県・和歌山県からの埋立用土砂供給の量・価格について合意。
 - ・政府が2008年夏季オリンピックの大阪市招致を閣議了解。
 - ・平成11年度予算の大蔵原案で関空2期事業費として995億円が認められた(運輸省の概算要求は1,011億円を要求)。
 - ・大阪漁連は、関空会社、用地造成会社と漁業補償契約を締結し、関空2期埋立工事の同意書を提出。
- (1999年)
- 平成11年1月
- ・用地造成会社と大阪府、大阪府土地開発公社は、2期事業埋立用土砂供給に関し供給契約を締結。
 - ・関空会社は利用促進のためのエアポートセールスなどを行う「P(プロモーションプログラム)ーKIX推進本部」を発足。

- 2月
 - ・兵庫漁連との関空2期漁業補償決着。
 - ・用地造成会社は2期事業における公有水面埋立免許を出願。
 - ・関空2期空港島護岸築造工事入札。
 - ・大阪府、りんくうタウンの総事業費を971億円減らし、6,432億円とする収支の見直し計画を発表。
- 3月
 - ・新飛行経路の運用により関空の発着枠が1時間当たり26回から28回に拡大。
 - ・関空会社が国際線の夏ダイヤを発表。発着数がピークとなる9月は1日87便。
 - ・関空2期空港島埋立て地盤改良工事入札。
 - ・2期事業の建設棟が完成。
 - ・府道大阪臨海線の全線(大阪市福島区一泉佐野市、40km)が開通。
 - ・泉佐野市、泉南市、田尻町各議会は関空2期工事の公有水面埋立てに同意可決。
- 4月
 - ・関空会社が98年度の運営概況を発表、航空旅客数(通過旅客を含む)は、1,929万人で前年度比1%減、航空機の発着回数は同3%減の11万7,594回。
 - ・運輸省は関空2期事業で飛行場施設変更許可申請に伴う公聴会開催。
- 5月
 - ・大阪入国管理局関西空港支局はゴールデンウィーク期間の関空利用客数を発表。出入国数は延べ約33万5,900人で前年同期より21%多く、過去最高。
 - ・2期工事に備え地盤改良船2隻を使つた事前調査を工事海域で開始。
- 6月
 - ・2期事業で運輸省は関空会社が申請していた飛行場施設変更を許可。
 - ・神戸市長が神戸空港の埋立を免許。
- 7月
 - ・大阪府知事が関空2期事業について用地造成会社と府港湾局に免許交付。
 - ・関空2期工事の安全祈願祭開催。
 - ・2期工事本格着工。
 - ・大阪国際空港の旧国際線ターミナルのリニューアル工事完了。
- 8月
 - ・関西空港2期事業の起工式開催。
 - ・中部国際空港会社が公有水面埋立免許を愛知県に申請。
- 9月
 - ・関空開港5周年。
 - ・関空会社は記念イベント「スカイフェスタ99」を開催。
 - ・政府の99年度公共事業予備費5,000億円の配分で関空2期工事に155億円計上。
 - ・りんくうパパラがリニューアルオープン。
 - ・神戸空港着工。
 - ・上海の国際ハブ空港・浦東国際空港開港。
- 10月
 - ・関空会社は国際線着陸料の最大50%割引く新制度を2000年3月26日からの夏ダイヤから導入すると発表。
 - ・関空会社は見学展望ホールの料金と連絡橋の通行料の試験的な割引を開始。
 - ・7月に改装オープンした大阪空港の展望デッキの入場者数が100万人を突破。

- ・運輸省が羽田空港の発着枠を2000年7月上旬から2段階で10万回増やして年34万回(17万便)とすると発表。
 - 11月・関空調査会、関空会社、用地造成会社共催による国際シンポジウム「国際空港と環境・地域との共生をめざして」を開催。
 - ・関空会社は99年9月中間決算を発表、営業収益は前年同期比1.9%減の589億円、経常損益が97億円の赤字。
 - 12月・成田空港の暫定平行滑走路着工。
 - ・大阪府が「関西国際空港を活用した地域振興ビジョン」策定。
 - ・淡路島より土砂搬出開始。
- (2000年)
- 平成12年1月・関空会社99年の年間運営概況を発表。1,987万9,704人と開港以来最高を記録。
 - 2月・見学展望ホールの入場料を値下げ。
 - ・関空会社が経営改善推進本部を設置。
 - ・大阪府知事選で太田房江氏が当選。
 - 3月・関空会社、116億円の第3者割当増資を発表。
 - ・関空会社、夏ダイヤを発表、週便数660便、乗り入れ航空会社49社、過去最高。
 - ・関空会社、2000年事業計画を発表、総額1,296億300万円。
 - ・運輸省、大阪府等が「大阪一東京航空シャトル便構想協議会」を設立。
 - 4月・関空会社、空港内駐車場料金を値下げ。
 - ・関空会社が平成11年度の運営概況を発表、航空旅客数は2,001万人で過去最高。
 - ・大阪国際会議場オープン。
 - 5月・関空2期工事で、護岸の一部となる第1号ケーソンを投入。
 - ・大阪入国管理局関西空港支局は、ゴールデンウィーク期間の関空利用旅客数を発表。1日当たりでは、開港以来最高の3万4,000人を記録。
 - 6月・関空会社は、国内線の着陸料割引を発表。
 - 7月・東京一大阪シャトル便の運航開始。
 - ・関西国際空港全体構想促進協議会が2000年度総会を開催。国に財政措置や支援を求める要請書を決議。
 - ・大阪府南部と和歌山県北部の5市8町が関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会を結成。
 - 8月・関空会社は1期工事の地盤沈下の状況を大阪府、大阪市等に報告。
 - ・夏休み期間(7月20日～8月20日)の関空利用客を発表。出入国者数は128万8,900人で、前年同期比20%多く、過去最高。
 - ・中部国際空港着工。
 - 9月・関空、羽田に東京一大阪シャトル便専用カウンターを開設。
 - ・関空会社、経営改善策の中間とりまとめを発表。
 - ・和歌山県知事選で木村良樹氏が当選。
 - 10月・関空用地造成会社が、ケーソン据

え付工事を実施。207mの護岸が姿を現した。

- ・関空会社が、「運営状況と経営状況について」を発表。
- ・関空会社、冬ダイヤを発表、週便数644便となり、前年比46便増加。
- ・神戸航空貨物ターミナル(K-CAT)が、陸上輸送業務に特化。

- 11月
- ・エアロプラザショッピングセンターが関空会社の直営店としてリニューアルオープン。
 - ・関空会社は2000年9月中間決算を発表。営業収益は前年同期比2.8%増の606億1,000万円、経常損益は55億8,300万円で前年同期に比べ4割強縮小。
 - ・和歌山加太地区から、土砂供給を開始。
 - ・運輸省は関空会社の経営問題を論議する「関西国際空港に関する検討委員会」を設置。
 - ・りんくうタウンに西日本最大級のアウトレットモール「りんくうプレミアムアウトレット」がオープン。
 - ・大阪府の「りんくうタウン活用方策検討委員会」が発足。
- 12月
- ・宮沢蔵相と扇運輸相は、関空2期事業について、2007年供用開始で合意。
 - ・平成13年度予算の大蔵原案で関空2期事業で1,072億円認められた。

(2001年)

平成13年1月・関空会社2000年の運営概況を發

表。発着回数12万2,916回、旅客数2,047万7,129人、国際貨物89万752t、いずれも過去最高。

- ・関空会社、空港島17地点の地盤沈下の実測値を公表。平成12年12月時点の沈下量は平均で11.7m。
 - ・関西空港の地元自治体と経済界のトップが経営改善策を検討する「関西空港の事業推進方策に関する検討会議」初会合を開催。
 - ・泉南、阪南、岬の3市町の商工会は、「関西国際空港南ルート等早期実現連絡会」を結成。
 - ・大阪国際空港の北ターミナル(旧国内線ビル)の改修工事が終了。
- 2月
- ・関空会社は、3月より国内自家用機の関空利用に関する規制を緩和すると発表。
- 3月
- ・米国土木学会(ASCE)は、関西空港を「21世紀を代表する建築物」(10事業)に選んだ。
 - ・関空会社は第三者割当増資を行った。増資後の資本金は5,920億5,000万円。
 - ・大阪国際空港の新しい管制塔と空港庁舎が完成。
 - ・韓国仁川国際空港が、1,173ha、3,740m滑走路2本でオープン。着陸料は、ジャンボ機で314万ウォン(約29万円)と関空の(約91万円)の3分の1以下。
 - ・ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが大阪市此花区にオープン。
- 4月
- ・関空2期事業で、空港島埋立部分が初めて海上に姿を現した。

- ・経済団体の呼びかけで関西空港の利用促進策を話し合う「関西国際空港利用促進懇談会」が発足。
 - ・関西空港調査会が建設していた「関空交流館」が貝塚市二色に完成。
- 5月
- ・関空2001年3月期決算を発表、経常損益は前期より80億円改善し156億円となる。
 - ・大阪入国管理局関西空港支局は、ゴールデンウィーク期間の関空利用客数を発表。出入国者数は延べ30万6,100人で前年同期より0.3%多く、過去最高。
- 6月
- ・関空会社、環境管理計画「エコ愛（アイ）ランド・プラン」をまとめた。
- 7月
- ・関空会社は、7月1日から見学展望ホールの入場料を無料にした。
 - ・大阪府の「りんくうタウン活用方策検討委員会」が今後の企業誘致の進め方について提言をまとめた。
- 8月
- ・関空会社は、旅客サービス施設利用料（PSFC）を航空会社がチケットを販売する際に一括して徴収するシステムに変更することを決めた。
- 9月
- ・関空会社は、2期ターミナルビルを1期と2期の空港島に挟まれた水面に浮体工法で建設することなどを骨子とした2期空港施設変更計画案を発表した。
 - ・関空の8月の航空機の離発着回数が1万1,326回に上り、開港以来はじめて成田空港（1万1,269回）を上回った。
- 10月
- ・関空国際線冬ダイヤを発表、米同時テロの影響で、平均便数は前年より3便少ない636便／週。
 - ・世界観光機関（WTO）の大阪総会が、世界115ヶ国地域の参加を得て10月30日に開催。
- 11月
- ・関空会社は、346億5,000万円の第三者割当増資を発表。
 - ・関空調査会、関空会社、関空用地造成会社共催による国際空港シンポジウム2001を開催。
 - ・関空会社は、2001年9月中間決算を発表。経常損益は41億円の赤字となり、開港以来最少の赤字額。
 - ・関西空港から羽田空港行きの飛行ルートが11月28日から、陸上ルートに変更。
 - ・関西国際空港の推進方策に関する検討会議が、国土交通省が提示した上下分離案の具体化を求める報告書を発表。
- 12月
- ・近畿選出の与党国会議員が「与党関西国際空港推進議員連盟」を設立。
 - ・政府の特殊法人整理合理化計画で、関西空港会社は「さらなる民営化を図る」と表現、具体策を先送り。
- (2002年)
- 平成14年1月
- ・関空会社は、空港島の地盤沈下についての観測結果を発表。2008年末頃には、沈下はほぼ終息すると予想。

- ・大阪市の第三セクター湊町開発センターは、大阪シティーエアーターミナル(OCAT)での国際線搭乗手続き業務を4月以降休止すると発表。
 - ・神戸市は、第三セクターの海上アクセスが運航する関西空港とポートアイランド間的高速船航路「K-JET」を2月7日で廃止すると発表。
- 2月
- ・関空会社は、3月末から始まる夏ダイヤから1年間に限り、増便や新規乗り入れ便を対象に着陸料を割引くと発表。
 - ・関空調査会は、設立25周年事業として調査会の自主研究事業として活動している、航空交通研究会の研究報告会を開催。
- 3月
- ・関空用地造成会社は、2期用地造成埋立土砂の搬入量が、3月5日に1億³に到達したと発表。
 - ・関西空港の1期島と2期島をほぼ中央部分でつなぐ連絡誘導路約6haの基礎造成が終わり3月26日記念式典を挙げる。
- 4月
- ・関空会社は、関西空港をめぐる諸問題をわかりやすく説明した「関空レポート」を作成。
 - ・関空調査会と運輸政策研究機構は、関西国際空港の首都圏に向けたPRを目的として4月22日、東京都内で「関西国際空港シンポジウム」を開催。
 - ・成田空港の暫定平行滑走路が4月18日供用開始。
- 5月
- ・関空会社は02年3月期の決算を発表、経常利益が169億円の赤字。
- 6月
- ・与党関西国際空港推進議員連盟と関西国際空港全体構想促進協議会は6月4日合同総会を開き、2期滑走路の2007年供用開始を国に要望した。
- 8月
- ・関西国際空港開港以来の旅客数が1億5,000万人を突破。
- 10月
- ・関西飛翔会は10月4日関空2期工事現場見学会及び平成14年度総会を開催。
 - ・国交省は成田・関空・中部の3国際空港の上下分離方式による民営化を正式撤回を表明。
- 11月
- ・関空会社は2002年9月中間決算を発表。昨年9月の米同時テロで旅客、便数とも減少した余波が続き、経常赤字が68億100万円に。
- 12月
- ・塩川財務相と扇国土交通相が関空の安定的な経営基盤確立のための支援、2007年供用開始を目標とする2期事業について予定どおり用地造成を進めることで合意した。
 - ・平成15年度予算の財務省原案で、関空2期事業925億円認められる。
- (2003年)
- 平成15年1月
- 2002年の関空の旅客数が1,737万人で、大阪空港の旅客数1,763万人を下回った。
- 2月
- ・兵庫県、大阪府の各知事と神戸、大阪の各市長、関西経済連合会会長が3空港の共存のあり方について意見交換する「関西3空港懇談会」の初会合を開催。

- 3月 ・ 関空会社は、2003年度から3年間に30億円の経費を削減する経営改善計画を発表した。
- 5月 ・ 関空用地造成会社が、2期工事現場をバスで巡る無料見学ツアーを始めた。
 - ・ 大阪入国管理局関西空港支局は、ゴールデンウィーク期間の関空出入国者数を発表。昨年より33.1%減り18万2,900人だったと発表した。開港以来最低となった。
 - ・ 関空会社は、航空・旅行業界と組んで「FLY FROM KIX」キャンペーンを始めた。
- 6月 ・ 関空会社社長に宮本一氏、社長に村山敦氏が就任。
- 7月 ・ 関西国際空港全体構想促進協議会は7月4日総会を開き、2期工事造成費用の確保などの要望書を採択した。
- 10月 ・ 新空港レビュー（関空調査会発行）が昭和53年の第1号の発行以来、10月で第300号を迎えた。
 - ・ 関空会社は、経営改善計画を具体化した、経営改善計画アクションプランを発表した。
- 11月 ・ 関空会社は、自治体や経済界代表による「関西国際空港利用促進検討会」を設置、11月25日に初会合が開かれた。
- 12月 ・ 12月9日、関空埋立工事の最終工程となる、2次揚土工事の着工式が開かれた。

(2004年)

- 平成16年2月 ・ 関空会社は、初の個人向けとなる第1回関西国際空港社債の募集をした。
 - ・ 2003年関西空港の貿易額は、輸出が3兆406億円、輸入が2兆1,174億円でいずれも過去最高となった。
- 3月 ・ 関空会社は、単独路線割引等を盛り込んだ、2004年度の着陸料割引制度を発表した。
 - ・ 関空会社は、エアロプラザ内のホテル日航関西空港について、10月以降、宴会事業をやめると発表。
- 4月 ・ 関空会社は、2004年度の事業計画を発表、事業費総額は、前年度比27%増の1,555億6,900万円。
 - ・ 関西空港に国内初の犬、猫用空港内ペットホテル「プロムナード」がオープン。
- 5月 ・ 関西国際空港利用促進検討会が、50項目にわたる利用促進の行動計画「アクション50」をとりまとめた。具体的に実行するため「関西国際空港利用促進行動会議」を設置した。
 - ・ 関空会社が、2004年3月期の連結決算を発表。経常損益は63億6,500万円の赤字で、約90億円改善した。
- 6月 ・ 新空港レビューがリニューアル

- し、「KANSAI 空港レビュー」としてデビュー。
 - ・イギリスの調査会社、スカイトラックスが実施した「AIRPORT of the YEAR2004」で、関西空港が9位に入った。
 - 7月
 - ・関空連絡橋の通行料金を引き下げる社会実験開始。
 - ・関空新展望ホールオープン。
 - ・空港島護岸で、「魚類の分布状況調査」のための釣り調査を実施。
 - ・関西3空港懇談会、伊丹空港の騒音を軽減する方向で合意。
 - 8月
 - ・国交省、伊丹空港の騒音軽減のための具体案を11市協に提示。
 - ・夏の繁忙期の出国者100万人を越す。
 - 9月
 - ・関空開港10周年を迎え、各種イベントを実施。
 - ・関空調査会、関空会社、用地造成会社共催による、国際シンポジウム2004を開催。
 - 10月
 - ・関空に、関西空港海上保安基地が発足。
 - ・関空PTBI階に、観光情報センターを開設。
 - ・関空上期旅客数、771万2,000人となり、前年同期比3年ぶりにプラス。
 - ・冬ダイヤ、国際線が過去最多の週686便となる。
 - 11月
 - ・関空開港10年目(2003.9~2004.8)の輸出額4兆2,122億円、輸入額2兆3,065億円と、いずれも過去最高。
 - ・関西飛翔会、関空調査会共催の講演会で、塩川前財務大臣が、関空のあり方を指摘。
 - 12月
 - ・りんくうプレミアムアウトレット3期増設分開業。153店舗、店舗面積約30,000m²で西日本最大級。
 - ・伊丹空港の格下げ問題で、国交省が11市協に対し、2007年度中に「1種」から「2種A」への格下げを検討することを文書で提示。
 - ・平成17年度予算の財務省原案で、関空2期事業531億円認められる。
 - ・北側国土交通相と谷垣財務相が関空の2本日の滑走路の2007年供用開始で合意。
- (2005年)
- 平成17年1月
 - ・関空会社は、2期事業に必要な民間出資(200億円)を募る事業説明会を開催。
 - 2月
 - ・関空の2004年国際線の1日平均便数は、過去最高の97.2便となった。
 - 3月
 - ・スカイマークエアラインズ、羽田ー関空の運航を開始。
 - ・関空用地造成会社は、2期島の埋め立て免許の変更を大阪府に申請した。
 - 4月
 - ・スカイトラックスが実施した2005年の世界の空港ランキングで関空が総合部門で5位に入った。
 - 5月
 - ・関空会社は展望ホール「スカイビュー」を国内初の「航空テーマパーク」として再整備する計画を発表。オープンは7月。
 - ・関空2期工事で岬町の土砂採集場

- からの供給を終了した。
- ・関空会社の2005年3月期の連結決算は経常利益が51億円と設立以来通期で初の黒字。
- 7月
- ・スカイビュー、「航空テーマパーク」として、リニューアルオープン
 - ・関空全体構想促進協議会、関空の集客・利用促進事業に5億円の財政支援。
- 8月
- ・2005年上期の関空輸入額が1兆2,492億円で過去最高を記録。
 - ・関空国際貨物便発着が、開港以来10万回に達した。
- 9月
- ・大阪府が、関空2期滑走路の埋立地約240haの竣工を認可。
 - ・旅客ターミナルビル、スポット番号に合わせゲート番号を変更。
 - ・関空で乗り継ぎ客を対象とした、トランジットツアーを実施。
 - ・11市協、大阪国際空港周辺都市対策協議会と名称変更。
- 10月
- ・関空会社、2本目の滑走路の起工式を挙行。
 - ・国際線冬ダイヤ、過去最高の週683便。
 - ・関空会社、滑走路全面改修のアイデア公募。
- 11月
- ・関空航空旅客11年2ヵ月で2億人超え、国内最短記録。
 - ・9月中間期の連結決算、経常利益74億円で、2期連続の黒字。
- 12月
- ・平成17年度予算の財務省原案で、関空2期事業171億円認められる。
 - ・関空の11月の国際貨物便発着回数が、1,167回で1ヵ月の発着回

数としては、関空開港以来最高を記録。

(2006年)

- 平成18年1月
- ・関空2005年の発着回数が11万725回で、前年比8%増。
- 2月
- ・全日空が2月24日から、関空－羽田間に深夜貨物便を週4往復運航。
 - ・大阪税関が、関空2005年の貿易額を発表。輸出入合わせて6兆6,441億円で、4年連続増加し、過去最高を更新。
 - ・神戸空港（愛称マリンエア）が、2月16日ポートアイランド沖に開港。
- 4月
- ・関空の今夏の国際線運航計画を発表。便数は、ピーク時で週710便となり、過去最高だった去年の700便を更新する見通し。
 - ・関空2006年度の総事業費は、前年比22.3%減の923億円。
 - ・和歌山市加太地区の関空埋め立て土砂の搬出作業が、4月10日完了した。
- 5月
- ・ゴールデンウィーク中の出入国者数は31万1,000人。1日平均3万1,100人と昨年より2,000人増加。
 - ・関空2006年3月期の連結決算は、営業収益が1,045億円、経常利益は92億円。
 - ・スカイトラックが実施した2006年の世界空港ランキングで、関空が総合部門で、昨年度からランクを1つ上げ4位に入った。
- 6月
- ・北側国交相が、関空2本日の滑走路を2007年8月2日に供用開始と表明。

- 7月
 - ・台湾の中華航空が32年ぶりに関西空港発着の台北―大阪の定期便を復活。
 - ・旅客ターミナルビル2階のレストラン街「町家小路」が完成、営業を開始。
 - ・神戸市の第三セクター、海上アクセスが関空―神戸空港間に海上航路を再開。
 - 8月
 - ・2期空港島護岸に供用開始までのカウントダウン掲示板が設置された。
 - ・関西空港の展望ホールの入場者が6月末までの1年間で68万3,721人となり、目標の60万人を大きく上回った。
 - ・8月の国際線発着回数が6,431回で、月間では開港以来最高を記録。
 - 9月
 - ・サウジアラビア航空の定期旅客便が初めて就航。
 - 10月
 - ・関西空港会社は2006年冬季(10～3月)の国際線の運航便数が過去最高の週733便になると発表。
 - 11月
 - ・関空会社の9月中間連結決算で営業収益530億円、税引き後利益は70億円と2期ぶりの黒字だったと発表。
 - ・関空会社は第2滑走路をB滑走路、現滑走路をA滑走路と呼称変更すること決定。
 - 12月
 - ・平成19年度予算の財務省原案で、関空整備費163億円が認められる。
- (2007年)
- 平成19年1月
 - ・関西国際空港2期島周辺漁業禁止区域申請、4月の施行を目指す1期島と合わせ約1,090haが禁止区域となる。
 - 2月
 - ・関空年末年始の国内線乗客数9.2%増。
 - ・関空年末年始の出入国者数前年同期を2.5%上回る。
 - ・国土交通省―関空第2滑走路検査開始。
 - 3月
 - ・関空第2滑走路に検査機初着陸、2カ月間関空との無線連絡等点検。
 - ・国交省関空の航空需要予測(推計値)、発着回数―2012年度に14万8,000回、2017年度は16万回と予測。
 - ・関空会社、旅客ターミナル2階北エリアに日本初の24時間空港ラウンジ「KANKU LOUNGE」をオープン。
 - ・1日より液体機内持ち込み検査開始。
 - ・関空貨物取扱量2006年84万2,085tで世界23位。
 - ・第2滑走路のロゴマーク発表
 - 4月
 - ・貨物専門のギャラクシーエアライン、新千歳―関空線を開設。
 - ・2006年度発着回数(速報値)前年度比3%増の約11万6,500回と発表。
 - ・海上アクセス(神戸―関空ベイ・シャトル)、駐車場無料化で乗船客6割増
 - ・「8月2日供用開始」冬柴国土交通相に届け出。
 - ・救急患者輸送用新型リフト導入。
 - ・2本目の滑走路、国交省の完成検査に合格。
 - 5月
 - ・GWの関空出国者数30万400人、関空第2滑走路でマラソン大会。市民ランナー約1万2,000人参加で新滑走路を駆け抜ける。
 - ・国交省5.16～22、新「陸上ルート」で実機飛行テスト。

- ・関空会社、第2滑走路めぐりシンポジウム開催。
 - 6月 ・関空の財務体質改善へ国交省 成田株売却など活用。
 - ・関空の2本目滑走路、用地造成会社など完成祝う。
 - ・関西飛翔会は6月5日、関空2期空港島の見学及び懇親会を開催した。
 - 7月 ・大阪府・関空が政府に税関24時間化など構造改革特区を提案。
 - ・村山社長「上場、7年後が目安」と語る。
 - ・新滑走路で消火救難訓練を実施。
 - ・国交省が、羽田からの夜間ルートを9月27日から導入と発表。
 - 8月 ・関空第2滑走路オープン。
 - ・上半期輸出入額が過去最高。輸出額2兆3,658億円、前年比12.3%増、輸入額1兆4,369億円5%増。
 - ・スカイトラックス社が実施した2007年の世界空港ランキングで関空が総合部門で9位に入った。
 - ・関空第2滑走路オープンにより、第1滑走路での離陸待ち時間10分短縮。
 - ・関空24時間運用開始は9月1日と発表。
 - ・概算要求で2期島の貨物地区整備費盛り込む。
 - 9月 ・関空会社・泉佐野市消防本部 9月4日夜、航空機炎上を想定、消防・避難訓練を実施。
 - ・8月の国際線発着回数7,040回で過去最高を記録。
 - 10月 ・関西空港駅の乗降客2億人突破。JR西日本が1億800万人、南海が9,200万人。
 - ・10月15日、関西空港調査会が「国際空港シンポジウム」2007を開催。
 - ・関空会社は、第2滑走路オープンを記念しエアポートラリー(10月17日～2008年3月31日)を開催。
 - ・冬ダイヤ過去最高、発着回数年12万9,000回達成。
 - 11月 ・関西空港ーカンボジアシェムリアップ空港と定期便就航。
 - ・促進協が関空貨物施設整備など国に要望。
 - 12月 ・ポイ捨て傘、到着客が自由に持ち帰り。関空、全国初のゴミ減量へリサイクル。
 - ・関空、14年完全民営化目標。村山社長 不動産証券化検討。
 - ・「関空連絡橋の売却準備」村山社長、民営化へ活用言明。
- (2008年)
- 平成20年1月 ・関空、年末年始国際線利用実績 出入国者41万4,000人、前年同期比3.8%減。
 - ・全日空が関空に貨物便を集約「国際貨物ハブ空港」と位置づけ貨物便を集約。国際週47便、国内週15便、計62便となる。
 - ・村山社長、2008年度目標達成に自信。
 - ・福島県と連携、国際物流ルートを構築。
 - 2月 ・5年半ぶり仙台便復活。日航が4月より仙台便(1日1便)を新設。
 - ・関空会社と福島県国際航空物流で共同ビジョン発表。
 - ・3空港07の国内線利用、3年ぶり減。
 - ・関空会社を中心とした運営を想定し

- 神商会頭「関西産空港一体運営へ協議を」。
- ・関空会社2月15日、空港周辺海上で航空機事故を想定し訓練 約80名参加。
 - ・社債で300億円調達。10年債、年1.684%で200億円、20年債、年2.323%で100億円。
- 3月
- ・関空会社、「関西国際空港エコ愛ランド推進協議会」を設立、2012年までに二酸化炭素を2006年度比10%削減。
 - ・関空会社、国際・国内線到着口全3カ所に、到着機の現在地がわかる大型モニターを設置。
 - ・OACT発着の関空快速消える。
 - ・国際線夏ダイヤ、初の週800便。
 - ・関空会社、航空貨物専門誌で連続1位。
- 4月
- ・関空会社、08年度事業計画を発表 全体事業費－601億200万円、建設事業－54億7,100万円、管理事業－546億3,100万円。
 - ・国際貨物取扱量－76万3,583t－世界18位。旅客1位はロンドン・ヒースロー6,209万9,530人、関空30位以内に入らず。
 - ・関空07年度発着回数、最高12万8,943回 国際線－7万9,759回、国内線－4万9,184回 旅客数は、1,668万5,038人6年ぶり大阪空港を上回る。
 - ・ゴールデンウィーク33万人が出入国。
- 5月
- ・2期事業に土木学会技術賞。
 - ・ゴールデンウィーク関空の出入国者数32万8,700人、昨年より2万8,300人多い。
 - ・関空会社に太田前知事の支援団体が植樹用に2,000万円寄付。
 - ・G8環境相会合に合わせ関空島で「2008エコ愛ランドKIX」の展示を行った。
- 6月
- ・関空・村山社長就任5年「民間らしくなってきた」国を動かすのは熱意。
 - ・関空 契約部門を部に昇格。
- 7月
- ・スカイトラックス社が実施した2008年の世界空港ランキングで関空が総合部門で6位に入った。
 - ・関空会社緊急地震速報を日本語、英語、中国語、韓国語で提供。
 - ・アジアナ航空、サイパン線開設、ソウル線を増便。
- 8月
- ・関空第2滑走路の供用開始1年、貨物便は2年で1.5倍。
 - ・関空の深夜便活用で近畿の果物、収穫翌日にアジア地域小売店へモデル事業開始。
 - ・関空連絡橋回数券の販売終える。
 - ・コイン式インターネット、多言語入力可能に、日本語、英語に加え韓国語、中国語の入力が可能となる。
 - ・泉佐野市、通行車両から1往復150Pを徴収する条例案を可決した。
- 9月
- ・関空、東南海・南海地震、政府が初の想定訓練。
 - ・関空会社社長、上下分離へ特定目的会社を検討。
 - ・関空会社、国内空港会社初の「CSR報告書2008」を発行。
 - ・関空、南海駅に外貨両替所オープン
 - ・大阪府知事、神戸市長、関空社長、3空港一体運用検討で合意。
- 10月
- ・阪急航空が関空軽飛行機遊覧を再開
 - ・関空護岸で釣り、初摘発。
 - ・大韓航空、グアム線を開設。
 - ・国際線冬ダイヤ、貨物便2割減。
 - ・関空社長、大阪府、京都府、兵庫県

- の3府県知事と上海で関西観光セミナー参加を開催。
- 11月・大阪府橋下知事、関西空港の利用促進に向けて、国土交通省に伊丹～成田廃止を要望する方針。
- ・兵庫県井戸知事、関空の問題は関空で、関西3空港の一体運営にクギ。
 - ・関空会社、2008年度発着回数、12万9,000回に下方修正。
 - ・国交省次官「伊丹～成田便必要」
- 12月・関空、外貨自動販売機を設置、混雑緩和と深夜便対応で午前0まで利用。